

## 1. はじめに

環境省では、平成 16 年度から里地里山保全再生モデル事業（以下「モデル事業」）をスタートし、神奈川西部地域（秦野市）、京都北部・福井地域（宮津市、綾部市、福知山市、越前市）、兵庫南部地域（三田市、宝塚市、川西市、猪名川町）、熊本南部地域（氷川町）の 4 地域で、保全再生の検討を行い、地域ごとに保全再生の具体的な計画をとりまとめた「地域戦略」の策定と試行的な取り組みを行ってきました。

この「里地里山保全再生計画作成の手引き」（以下「手引き」）は、里地里山の保全再生活動を始めようとする自治体や地域団体、NPO等の参考となるよう、モデル事業での検討を踏まえ、里地里山保全再生計画の作成手順をとりまとめたものです。

里地里山とは、幾世代にも渡り、人々が自然に働きかけ、持続可能な農林業の営みが行われてきたいちばん近くにある自然空間です。ここでは、人々の営みにより多様な自然環境が形成され、生物多様性に富んだ空間が維持されてきました。里地里山保全再生計画とは、「人々の適切な維持管理」により「生物多様性に富んだ空間」を保全再生し、地域社会とともに持続可能にすることを目的とした計画です。

里地里山保全再生計画づくりとは、関係する主体が里地里山に「現代的な新たな価値」を見つけ、里地里山の保全や維持管理を継続する意義を見つける過程でもあります。

里地里山の保全再生を行う場合、地域でどの範囲の里地里山を対象にするか、その里地里山の保全再生を実行していく主体は誰かを最初に考えます。新たに取り組む里地里山だけでなく、これまで保全再生活動が行われてきた地域でも再検討することで、保全再生活動が活性化することを目指しています。

この「手引き」は、里地里山保全再生計画づくりと実行に際して、多様な主体の調整を行い、実行の中心的な存在となるコーディネーターに利用されることを想定しています。

コーディネーターにとって重要な資質は、調整能力です。特に地権者との調整は、保全再生活動にとってきわめて重要です。この能力は、地権者からの信頼を得ていなければ発揮できません。自ら進んで地権者等の農家と作業を行い、人間的な信頼が得られる人が望まれます。コーディネーターの能力は、里地里山での現場経験を積むことによって育まれていきます。新たにコーディネーターを探す場合、地方自治体の担当者など地域との調整経験を持つ人などを候補にします。

また、里地里山保全活動の持続は、住民の自主的・主体的な活動が前提です。すぐれたコーディネーターがいても、主体である住民自らが里地里山保全再生計画づくりに参加し、役割分担と地域の環境の保全意識を持たなければ、計画の持続的実行はできません。

この「手引き」が、里地里山の生物多様性、ふれあい、環境教育、エコツーリズムやグリーンツーリズム、食料の採取や生産、薪炭や枝葉、堆肥の産出の場などとして、持続可能な農林業の発展、人と自然の共生した地域づくりの進展に寄与することを祈念しています。

